

第2号発行

学会テーマ「医療ソーシャルワークの枠組みを再考する」

学会まで残り129日となりました。

NewsLetter第2号を発行します。今回もプログラムの一部をご紹介します。

先月演題募集を締め切り、査読の結果、口演演題43題、ポスター演題10題と決まりました。

プログラム紹介Vol.②

「全国医療ソーシャルワーカー協会会長の役割を考える」

(6月3日土曜 11:30～)

全国医療ソーシャルワーカー協会会長 代表

大阪医療ソーシャルワーカー協会 代表理事

白鷺病院(大阪府)

藤田 謙



「会長会」、そう、48のMSW協会の「会長」により構成される組織。

まあ、いうなれば「クラス代表委員会」って感じ? 「生徒会(=日本協会)」はあるけれど、「クラス代表委員会」もありました。もちろん、両者は対立しているのではなく、その役割は違えどともに「生徒(=医療ソーシャルワーカー)」のために活動していますよね。

会長会も同じです。発足当初は参加協会同士も「霧の中」を彷徨っている感じでしたが、会って話して打ち解ければそこはソーシャルワーカー同士。48の協会は、歴史も規模も体制も様々ですが、協会を引っ張る会長達の思いはたつたひとつ。

あいにく、会長会はその構成上、多くの医療ソーシャルワーカーの皆さんには、深～い霧の中での存在。でも、決して「伏魔殿」でないことは分かってほしい。ということで、今回、日本協会の全国大会の場で「会長会企画シンポジウム」を開催します。「医療ソーシャルワーク」という枠組みの中で、「MSW協会」を通して私たちの未来を考えるきっかけにできればと思います。協会活動に携わっている方はもちろん、「協会なんて眉唾もの」と遠ざけている方もぜひご参加ください。

「ソーシャルワークデータシステムの今後の活用と展望

(新システム「MANBO」の利用から)

(6月2日 金曜 16:30～)

茨城西南医療センター病院(茨城県)

日本医療社会福祉協会

調査研究部データシステム担当

飯島 望



医療ソーシャルワーカーの業務実態を、統一された項目、カウント方法で把握することは協会にとって長年の課題であった。2009年から長寿医療福祉助成金を受け、多くの会員が使用しやすいようエクセルをベースとしたデータベースシステムを作り配布した。100を超える病院で使用してもらうことができ、データの集約で有益なデータが得られることは分かったものの、病院ごとあるいは地区ごとに独自のデータベースや業務報告書式が確立されている現状の壁は厚く、また診療報酬の改正に伴う業務変動も多く、常に現状に合致した項目やシステムを提供することが困難であった。

担当チームでは、これまでのエクセル版では要望があっても加えられなかった機能や、定期的なバージョンアップを考慮したファイルメーカー版「MANBO」正規版を昨年4月に公開した。これは、フェイスシートを基本としてケース記録を記入できるものとし、日々の業務を記録することでデータを蓄積し、その結果を集計することで業務統計を行うことのできるシステムとした。さらに今年度は新たな展開として、「MANBO」に医療ソーシャルワーカーが業務上使用する各書式を組み込み、電子カルテとセットで販売する枠組みを構築する予定である。

本大会では、「MANBO」の新たな展開についてご説明することに加え、協会がより多くの医療ソーシャルワーカー業務の基礎データを集める目的は何か、統計データとしてどのように活用していきたいのか、そのことに「MANBO」がどのように役に立つのかを明示し会員の皆様に共通理解を図りたい。

尚、昨年同様、会場ではデータシステムのデモンストレーションブースを設ける。

「ソリューション・フォーカスト・アプローチの集い」

(6月3日 土曜 10:30～)

四谷メディカルキューブ(東京都)

中里 哲也



「MSWから見た『退院支援加算』の検証～光と影を考える～」

(6月3日 土曜 10:30～)

札幌同交会病院(北海道札幌市)

木田 智也



平成28年度の診療報酬改定で、退院支援の更なる推進を図る目的で『退院支援加算』が新設された。医療機関における私たちMSWの退院支援や、他の関係機関との連携といった業務が診療報酬で評価され、全国でも数多くの医療機関が算定を行っている。

私たちMSWが行う退院支援は、言うまでもなく「加算を算定するための支援」ではなく「クライアントの生き方の支援」である。しかし、MSWをはじめとする退院支援担当者だけが退院支援(マイクロ実践)を頑張ってもダメで、各医療機関が組織として「退院後の生活を見据えた支援」を行う事ができないと全く意味がない。MSWには、退院支援担当者の質向上に向けた取り組みと共に、組織に適切に働きかけ、システムを構築する力(メゾ実践)が必須になる。マイクロ実践の質を高めると同時に、こうしたメゾ実践が発揮されないと、退院支援加算は「絵に描いた餅」になってしまう。

退院支援が診療報酬で評価された今こそ、私たちMSWが行う退院支援がクライアントの生き方の支援を志向しているのかを再確認し、全国の会員が集結する北海道の地で、その検証結果を報告し、『退院支援加算』が私たちMSWにもたらす光と影を考えたい。

私たち医療ソーシャルワーカーにとって、日常業務を行う上で面接技術が必要不可欠であることは明白ですが、その面接技術を磨き、点検し、そして実践者同士が認め合う機会はそう多くないと思います。

日本医療社会福祉協会では例年ソリューション・フォーカスト・アプローチ(以下:SFA)の研修が開催され、早10年が経過しました。研修に参加された全国各地の多くのソーシャルワーカーが、日頃の面接における情報収集の際に用いる技術の1つとしてSFAを活用していることと思います。

このついでには、「SFAを学んだことのある人」や「日頃から実践で活用している人」だけでなく、「学んだことも活用もしたことがないけれど興味がある人」という方々にも参加していただき、みんなでSFAを活用したソーシャルワーク実践の「楽しさ」、「奥深さ」、「誇らしさ」、「難しさ」などを含めた「魅力」を共有し、感じてもらえる機会にしたいと思っています。是非多くの方にご参加いただきたいです。よろしくお祈りします。